

大学入試改革フォーラム ～高大接続をテーマに～

■ 来賓あいさつ

安西祐一郎（日本学術振興会理事長、文部科学省顧問）

みなさま、こんにちは。ご紹介いただきました安西でございます。

大学入試改革、高大接続改革にずっと長く深くかかわってきております。その面からひとこと、ごあいさつさせていただきます。

1990年代の初め、18歳人口が大体204～205万人おりました。これが今、だいたい120万人を切るかという状況で、20年の間に80万人ぐらいが減っている、そういう状況がございます。80万人がどこに行ったのか。どこへ消えたのか。大学への入学者数はそれほど減っているわけではありません。高等学校を卒業して、社会で働く、就職する人たちが激減したということなんですね。そういう中で、それぞれ大学での教育が大事になってきます。また、高校生にとっても、ある一定のレベルできちんと知識・技能を持ち、またそれだけではなくて、今お話がありましたように、学力の3要素をしっかり持って活躍をしていってもらう、これが本当に大事になってまいります。

そういう意味で、アクティブ・ラーニングという言葉が流布しておりますけれども、高校生一人一人がチャレンジしていてもらいたい、また大学生もチャレンジしていてもらいたい。そのチャレンジする、そういう気持ちを持って、自分の好きなこと、もちろん学業もですけれども、本当に邁進してきたそういう高校生が将来報われていくようにしたい。そういう入試になってもらいたいと思うんですね。それでないと、トップレベルだと国内では言われている大学に、やっと受験で合格して入った、それじゃとてもとても、これからの時代に、社会に出てからリーダーは務められません。

今までの入試では、そういう学生が、トップレベルと言われる大学のある程度の部分を占めてきたと思います。一方で、いわゆるこういう（中位の）大学っていいでしょうか、そういう大学においてはどうしても、挫折感で暮らしている、そういう大学生が多いのではないかと。挫折する必要って全くないわけですよ。18歳人口が減っていくということは、むしろチャンスが増えていくわけで、私だったらもう1回、今の若い人に戻りたいと思うぐらいです。これから、そういう挑戦をしていく、そういう人たちが報われていく、人生で幸せになっていけるような高校教育であり、大学教育であってほしい。またその間にはさまる入試であってほしいと心から思っておりますし、また今日講演いただく先生方、パネリストの方々、すばらしい方々、本当に経験者ばかりです。これだけのメンバーがそろっているということはまず考えられません。是非、いい話をお聞きいただいて、私も聞かせていただいて、これからやはり、日本が乗り越えなければならない教育改革、入試改革を成就していく、それを一緒にやらせていただければ、というふうに思います。

是非、これからの日本の、またこれからの若い人たち、子どもたち一人一人のための、彼らの人生のための我々の努力だというふうに考えていただいて、そこのスイッチが入れば、必ず成就できるんです。スイッチが入らないと、できない。そのスイッチが入るかどうかが、それが、きょうの入試改革フォーラム、これがひとつのステップだと思いますので、どうぞ、よろしくお願い申し上げます。

